

「平成29年度実践的な手術手技向上研修事業に関する評価報告」

H29年度 CST実施実績(見込み)1

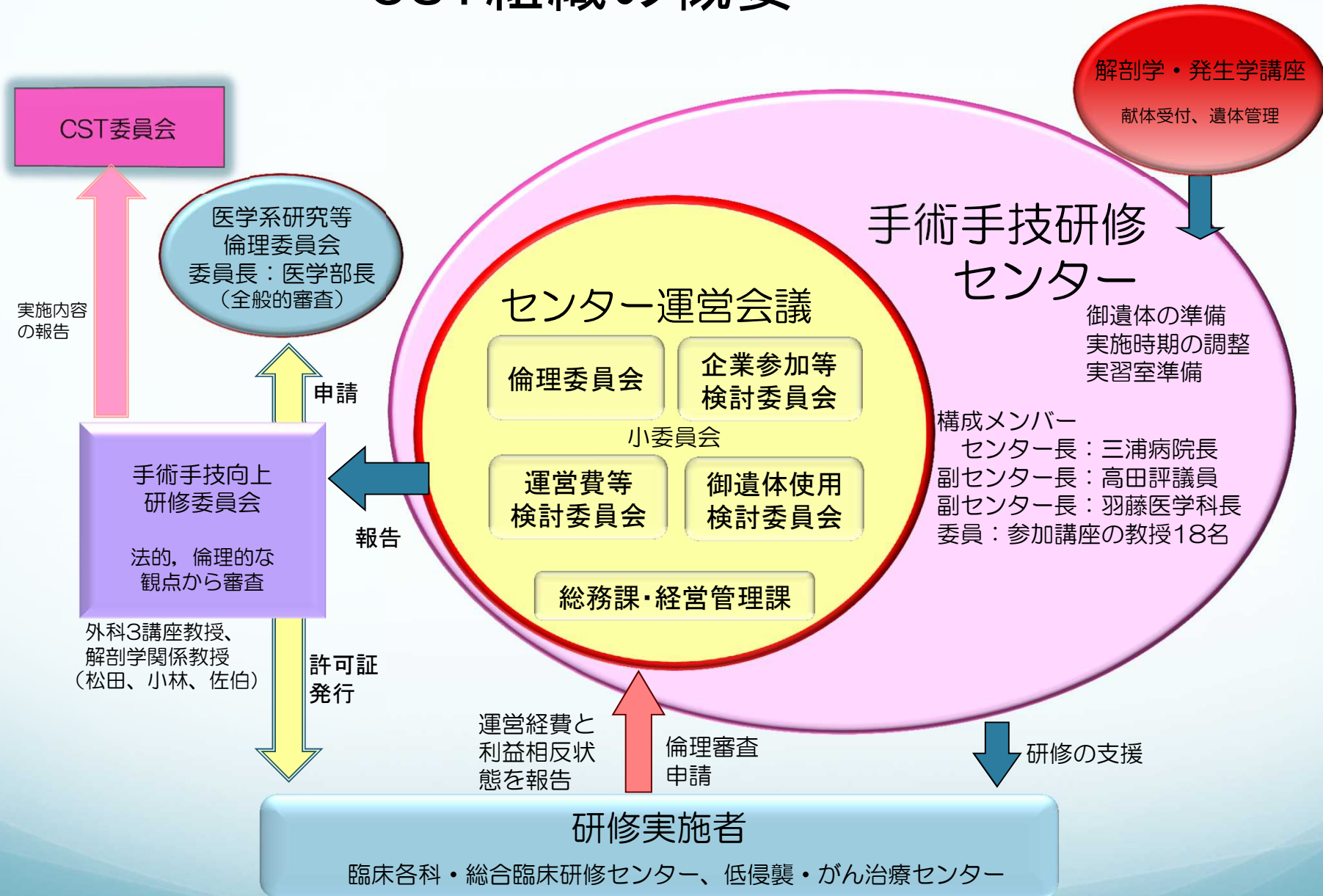
講座	テーマ	参加人数	実施日
肝胆膵移植外科	腹腔鏡下ヘルニア修復術1	26	H29.10.28
肝胆膵移植外科	腹腔鏡下ヘルニア修復術2	20	H29.10.29
肝胆膵移植外科	腹腔鏡下胃切除術1	25	H30.2.24
肝胆膵移植外科	腹腔鏡下胃切除術2	14	H30.2.25
肝胆膵移植外科	膵頭十二指腸切除術1	4	H29.12.26
肝胆膵移植外科	膵頭十二指腸切除術2	4	H30.1.11
肝胆膵移植外科	腹腔鏡下癒着剥離術	2	H30.2.21
肝胆膵移植外科	腹腔鏡下外側区域挙上術1	2	H29.2.22
肝胆膵移植外科	腹腔鏡下外側区域挙上術2	2	H29.2.26
肝胆膵移植外科	腹腔鏡下S状結腸切除術	2	H29.10.30
肝胆膵移植外科	腹腔鏡下膵体尾部切除術	1	H29.11.27
心臓血管呼吸器外科	開心術実習および肺切除術実習	8	H30.2.6
耳鼻咽喉科頭頸部外科	第8回愛媛頭頸部臨床解剖セミナー	25	H29.10.3-9
耳鼻咽喉科頭頸部外科	第4回愛媛脳神経外科・耳鼻咽喉科 ジョイント手術研修セミナー	35	H29.7.16,17
脳神経外科	頭蓋底手術に必要な手術解剖	40X2	H29.8.5~6
眼科	涙嚢鼻腔吻合術鼻外法・鼻内法、涙道内視鏡下涙管 チューブ挿入術	29	H29.11.19
眼科	眼瞼挙筋短縮術、内反症手術	8	H29.10.25
整形外科(脊椎)	第5回四国脊椎外科研究会Cadaverセミナー1	36	H29.11.11
整形外科(脊椎)	第5回四国脊椎外科研究会Cadaverセミナー2	34	H29.11.12
整形外科(膝)	第5回愛媛大学TKAワークショップ TKAのエキスパートを目指して	17	H30.1.13
整形外科(股)	第3回愛媛大学股関節BHAワークショップ 股関節安定性を追求したBHA手術アプローチの習得	13	H30.2.10

H29年度 CST実施実績(見込み)2

講座	テーマ	参加人数	実施日
泌尿器科	開腹による腎尿管全摘術の講習	9	H30.2.12
産科婦人科	腹腔鏡下広汎子宮全摘術	15	H29.10.8
産科婦人科	腹腔鏡下子宮全摘術	6	H30.3.13
救急航空医療学	献体を用いた外傷手術手技研究会1	24	H29.10.20
救急医学	献体を用いた外傷手術手技研究会2	8	H30.1.28
口腔顎顔面外科	外科的気道確保と頸部解剖	9	H30.2.3.
臨床器材研究所 (解剖学)	歯科用インプラント技術習得	10	H29.11.25
臨床器材研究所 (解剖学)	歯科用インプラント技術開発および人体組織に対する侵襲の把握	10	H29.11.26
第二内科	リードレスペースメーカ植込み術	11	H30.1.20
第二内科	ヒスパーシング植込み術	10	H30.1.21
第一内科・臨床研修センター・救急航空医療学	研修医手術手技(腰椎穿刺、胸腔ドレナージ挿入、気管切開)	12	H30.1.30
計 17講座	34件	のべ511人	のべ35日

CST実施件数	34件	使用ご遺体数	31体 (Thiel固定20体+ホルマリン固定11体)
---------	-----	--------	-----------------------------

CST組織の概要



事業の立ち上げ及び運用での課題と解決策

●白菊会会員への説明:

役員会、総会及び3回の地区懇談会で説明を行った。会長、会員のご理解は期待以上であった。会長の挨拶:「無償の奉仕のつもりで白菊会会員になったが、手術手技研修により、愛媛県内医師の医療技術が格段に錬磨されることは、白菊会員自身の子や孫にも直接恩恵があるということでもあり、思いがけない喜びとなりました。」という前向きなコメント。

●学内の協力体制:学部長、病院長等が率先して研修を行い、現在18講座が参加することとなった。

●研修場所、安全対策:

Thier固定が感染を防ぐことが報告されており、本法により研修を解剖実習室でも安全に出来るようになったことで、多人数の研修が可能となった。ご遺体から血液採取し、陰性の場合はTheir固定で手術手技研修で、陽性ならばホルマリンで再固定して通常の解剖実習で使用。

●X線撮影、X線透視:

放射線科、法医学講座の協力、技官の国家資格取得で可能となった。

●費用等:厚生労働省の支援が大きかった。人件費や解剖体経費増加には病院からの支援もある。医師会からの支援金1000万円により機器₄の購入が可能となった。

サージカルトレーニングの効果

●臨床技術の向上:

手術手技研修機会の増加、時間を掛けての教育、危険部位へのアプローチ、新手法の開発・試行、多人数での研修等、手術場では出来ないことも可能となった。特に内視鏡手術の研修に効果が高い。

●多講座、多施設との共同研修: 関連講座間でのジョイントセミナー、四国4大学合同セミナー等の開催が進む。

●研修医研修をご遺体でも行い、研修医が増加:

研修医に腰椎穿刺、胸腔ドレナージ、気管切開をシミュレーター研修の後にご遺体で研修を行う実践的研修が人気。平成24年度が約60名→平成30年度は約90名に増加。

●臨床研究の推進: 5年間で論文6報、講演5回、学会発表68回であり、さらに増加中である。

●科研費等の獲得: 4件。

●受賞: 第70回日本臨床眼科学会「2016 Ophthalmic Surgery Film Award」にて「Educational」部門のSilver Awardを受賞。

愛媛大学医学部附属病院の人工関節センターは、2015年のグッドデザイン賞を受賞

サージカルトレーニング継続の課題

●使用ご遺体数の増加:

使用するご遺体数の増加により、業務は確実に増加する。学部学生の解剖実習のみの時期に比較し、全体の業務量は2倍を超えている。会員申し込み希望は年間500名を超えているので、会員数、ご遺体数には問題無いが、技官の業務量増加が問題で有る。

●土日祝祭日での開催:

臨床講座は研修を土日祝祭日に行うので、そのほぼ全土日祝祭日が埋まってしまう。9月から12月までの土日祝祭日は32日であるが、37日間の研修が開催されている。

その対策として、主たる開催をウィークデイに限定する案、暗号式の手提げ金庫内に鍵を入れ施錠は主催講座が責任を持つとする案、解剖実習室や手術手技研修室の出入り口に監視カメラを設置してさらなる安全を確保するとともに技官が実習室で待機する時間を削減する案等を検討中。

●経費: Their固定液のみでも60万円以上が必要。厚生労働省からの支援は重要。さらに機器購入に使用出来る経費があれば、リース代金が不要となり、継続に役立つ。